ぬかた

岡崎市立
額田図書館便り
No. 28

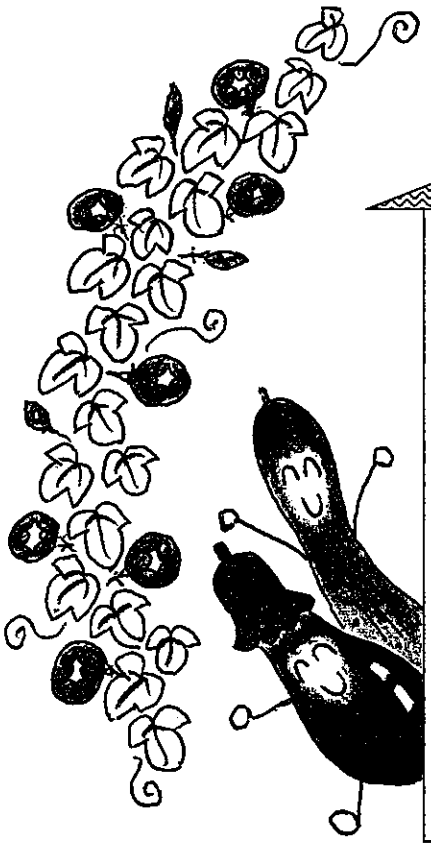
（2013・8）

今年のお盆休み、予定はもうお決まりですか？

（ 図書館にはお盆休みがありませんので、ご安心を！）

お盆になると、キュウリやナスに割り箸を刺してお供えを作った記憶がありますがキュウリは、少しでも早く霊を迎えたいと馬に見たて、ナスは、送るときに少しでもゆっくり帰ってもらいたいと、牛に見たてて作るのだと聞いたように思います。
他にも“祖霊は馬に乗り、牛に荷物を背負わせて戻ってくる”との説もあるようで、満月に照らされ、遠い空からはるばる懐かしい我が家を訪ね、再び天へと帰っていく姿が目に浮かび、先人たちの大切な人への想いが伝わってくるようですね。
今年のお盆には、久しぶりにお供えを作って「おがら」も焚いてみようかな！

額田「牧平の地蔵盆」でも、子どもたちの無病息災と豊穣を祈念し、いろいろな野菜でお供えが作られるそうですが、子どもの守護仏として信仰される地蔵菩薩には“親より先に亡くなった子どもが、賽の河原で苦しんでいるのを救った”とか“地獄の鬼から子どもたちを守ってくれる”などの伝説もあるようで、お地蔵さまの前で子どもたちがお詣りをしてその加護を祈る習わしは、大切に受け継がれていってほしいですね！



「お盆」と「お中元」

祖先の霊を迎えてなぐさめる仏教行事の「盂蘭盆会(ウラボンエ)」から「盆」と呼ばれるようになったという説もあるようですが、もともと、初春と初秋の満月の日に先祖の霊を迎える風習は、仏教伝来以前から日本にあったもののようです。

また、「盆礼」といって、親族や知人の家を訪ね、先祖への供物と共に進物の贈答をすることが江戸時代に盛んになり、中国・道教の教えにある三元信仰（上元・1月15日、中元・7月15日、下元・10月15日）が日本に伝わり、善悪を判別し人間の罪を許す神を祭る贖罪の日である中元が、盆礼と結びつき「お中元」に繋がっているようです。

【 参考　『おりおりに和暦のあるくらし』386.1/オ
旧暦くらし研究会　角川書店 】